

事業所における自己評価結果(公表)

事業所名 医療法人社団千実会 あきやまケアルーム

公表:令和4年 7月 11日

分野	チェック項目	はい(%)	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100	座位困難なお子さんたちの座位保持椅子を確保し、動線のスペースを工夫している。	定員ぎりぎりの日でもスペースは確保できるが、動き回れるお子さんがいるときの安全面で少し注意が必要な場合がある。
	2 職員の配置数は適切である	33	日ごとの来室子ども数と職員数の配置を毎日見直して調整している。	日により繁閑の差があり調整が日々必要。お子さんたちの登園を安定化させるように働きかけていく必要もある。保育士が不足しており、プログラム作成などで困難を感じることもあるため、看護師や福祉士もプログラムについての経験や理解を深める。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	67	入室からバリアフリーとなっている。様々な障害のお子さんに対応しやすいように、床面を中心に、座位保持椅子なども使って動線のスペース保持にも努めている。	バリアフリーではあるが、出入り口の段差が、大きいバギーの時に引っかかったり、ドア開放の保持が大変な場合があるようなので、バギーの入退室がスムーズにできるように今後検討が必要
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	83	日々の掃除、片付けなどはマニュアル化して行っている。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	67	定期的なケア会議を行い、オフの職員も参加して、情報共有をしている。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100	このアンケートが該当する。年に一回実施している	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	67	このアンケートが該当する。年に一回実施している。HP公開とケアルーム内壁面掲示は行っている。	会報として配布はしていない。紙面が多数になるため、希望があれば配布可能であることをお知らせするようにしたい。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	50		今後の検討課題とする
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	83	新人研修や、専門外の研修は確保に努めている。	業務の繁閑の差、不定期のお子さんの休室、などでとても十分とはいえない面があるが、今後はしっかりと増やしていく予定
適	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100		個々や職員間での認識共有などブラッシュアップしていきたいと考えている。
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	50		個々や職員間での認識共有などブラッシュアップしていきたいと考えている。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100	当事業所は、インクルーシブ保育、移行支援を念頭に置いた保育、医療ケアを行っている。個別支援計画に、移行支援、家族支援、地域支援の項目を明確に提示するようにした。	家族支援については、担当の相談専門員との連絡を密にして、必要なサポートを把握するようにしたい。また地域支援としては、並行保育、就学支援のみならず、地域の参画できる活動を地域誌などから紹介していきたい。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100	計画を職員間で情報共有し、活動の内容を吟味している。	年間計画や月間計画をもっと細かく立てていこうと考えている。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	67		現在はリーダーを中心に、日々の登園メンバーで臨機応変に対応することが多いが、今後は登園をもっと定常化し、立案を医療ケアと保育活動の両輪でしっかり立てたいと考えている。

切な支援の提供	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	67		保育的視点に基づくプログラムの立案が不十分と感じているため、その点を改善すべく、隣接の保育室の保育士アドバイスや交流の中での職員の体験学習などにより、より広がりのあるプログラムを目指す。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	83	職種によってはすべて個別で対応している。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	83	できるだけ朝の短い時間を利用して情報交換している。時間がすれ違うことも想定し、連絡ノートを作っている。リーダーは隣接保育室との連絡を密にし、ケアルーム登園幼児の中で合同保育可能なお子さんの随時連絡と、一日のスケジュール管理を行っている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	67		支援終了時には、職員間で集まることが勤務時間や物理的に困難な状況ではあるが、必要な情報共有が落ちないように日々連絡ノートや、時間外の電話連絡等を利用して、翌日以降の保育医療支援が行えるように手配している。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100	日々保育日誌を付けている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	67	ケアミーティングで改善すべき点を定期的に話し合っている。また4か月毎に発行する療育記録で見直しをしている。	さらに定期的に支援計画を更新できるように、職員間のコミュニケーションを図る。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	83		
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	83		コロナ禍でストップしていた部分があるので今後戻していきたい。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	100		
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	100		当施設から各医療機関関連機関への療育記録提出は行っているが、医療機関からは入院した場合に頂く報告書が主体。受診後の内服や医療行為の変更は、ほごしゃからのみしか伝わらない。今後保護者の承諾を得たうえで積極的に主治医などに連携を取ることが課題と感じている。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	83	並行保育を行い、その事業を通じて、移行支援に必要な情報共有を行うようにしている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	83	就学支援シートを利用している。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	50	保護者を介して行っている。	保護者とスタッフ間での情報を共有するようにする。事業所内、個別の相談にとどまっている傾向があるため、連携をしっかりとるように工夫したい。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	100	通常より、社会性の発達に応じて、隣接の一般保育事業室との交流保育を行っている。	交流保育時の医療ケアのタイミングや事故防止策に関して、今後さらに詳細なシミュレーションを行い対応策をマニュアル化しておきたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	50	三鷹市武蔵野市重症心身障害児協議会に参加し情報交換をおこなっている。	今後も積極的に関わるようにする。

	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	83	その日の活動をお迎えの時間にお話したり、日々メモなどで連絡するようにしている。	OTやPT、音楽療法士などによる個別支援の日程を保護者に伝え、直接見学可能な機会を増やす。計画的で持続的な成長の支援を共有できるようにした。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	67	情報提供は主にプリント配布で行っている。	子育て広場で行っているペアレントトレーニングを紹介する予定。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100		わかりやすい文書を用意する。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	67	各職種に個別支援計画の各部門の支援内容を作ってもらい専門性も持たせるようにしている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100	随時相談に対してはその場で対応し報告も行っている。	定期的という区切りはつけづらいが、相談のない保護者に対しても、今後より、必要なサポートがないか聞き出す努力をする。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100	保護者が活動している会の場所の提供を行っている。	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100	スタッフ間と管理者と情報共有し対応している。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100	クリニック、および、保育室月報にケアルームのコラムあり、また合同行事などを記載している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100		職員間での情報共有方法を徹底する。保護者や訪問者が立ち入れないという場所は作りがたく工夫が必要。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100		
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	33	隣接の保育室合同の夏祭りなどは参加を呼び掛けている。	コロナ禍で周知できていない。
	非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	100	
42		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100		
43		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	100		
44		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100		食物アレルギーのガイドラインに沿って整備する予定。
45		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	83	インシデント、アクシデント報告書を必ず記録するようにしている	スタッフの入れ替わりで十分周知されていないときがあったので共有事項をしっかりと確認できる体制を作りたい。
46		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	67	研修を受けた職員から他の職員への共有を努力している。	オンライン研修が増えてくることから活用したい。
47		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	33	身体抑制を行う対象児はいない。	当施設ではそのような場面の想定がないが、今後備えておく必要はあるだろう。